

## 子どもの本だな 13

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

## サリーのこけももつみ

ロバート・マックロスキー 文・絵  
石井 桃子 訳 (岩波書店)

サリーは、お母さんと山へこけももをつみに出かけました。長いこと歩いて疲れたサリーは、座りこんでこけももを食べているうちに、お母さんとはぐれてしまいました。一方、山の向こう側で、こけももを食べながら歩いていくまの親子も離れ離れになり、サリーとこぐまは、それぞれのお母さんを取りちがえ、後について歩き出しました…。

ついてくるのが自分の子どもではないとわかったとき、サリーのお母さんも母ぐまも、同じように驚き、同じように心配し、あどずさりする様子がユーモラスです。お互い、無事に自分の母親と再会し、大きなバケツにいっぱいのおけももを持って家に帰る結末にひと安心です。

挿絵は単色ですが、サリーやこぐまの表情を豊かに描き、広々とした秋のこけもも山を感じさせてくれます。読んでもらえば、四歳くらいから楽しめるでしょう。(池田)

## 山のトムさん ほか一篇

石井桃子 作 深沢紅子ほか 画 (福音館文庫)

北国の山の中に、トシちゃんとお母さん、ハナおばさん、甥のアキラさんが引っ越してきました。一家は山を切り開いて田畑を作り、ヤギや牛を飼う開墾の暮らしを始めたのです。ところが、引っ越しと同時にネズミの大群が押し寄せ、ねこいらず団子もネズミ取りも効果がありません。たまりかねた一家は、トムと名付けた、まん丸い目がフクロウにそっくりな白黒のネコを飼い始めました。トムの教育係となったお婆さんは、獲物取りの訓練の手始めにカエル取りをやってみせ、やがてトムは、ネズミは勿論、リスや蛇も捕まえられるほどたくましいネコに成長しました。

雑巾がけの水を飲んでお腹をこわし、山の中で迷子になり、家族を心配させることも度々のトムでしたが、クリスマスにはアキラさんと一緒にキジを捕まえ、家族にご馳走をプレゼントしたのです。

トムの一挙手一投足に笑いを絶やすことなく、戦後間もない頃の厳しい開墾の日々を乗り越えてゆく家族を温かく描いています。十歳くらいから。(片木)

## 地下水

血圧が低く、献血に行くたびに、長時間ひきとめられる。採血後の血圧値が90以上でないと帰せないようだ。先日も採血後に「しばらく休んでください。」とお茶が運ばれてきた。再度、測定しても、看護師が顔を曇らせ、測定しては「もうしばらく。」が繰り返される。「動けば上がります。」とがんばったところ、医師による測定となった。医師は、血圧を測り、脈をとり「この人は大丈夫。150まで生きるんじゃないか。」血圧が低く、脈がゆっくり打つ人は長生きする傾向があるらしい。

長く図書館を利用されている方から、「年を取って、なかなか本が読めなくなりました。」「根気がなくなりました。」と聞くことがある。これまで空いている時間の多くを費やしてきたことに、年を重ねると、気はあっても体がついていかなくなるのかと、長生きしてもとわが身の先々が不安だ。一方で、今の楽しみに取って代わるものがあるはずと、わくわくもする。

これを手渡したいと思う利用者の顔が浮かぶ本に出会えた時は幸せだ。図書館で働いている間は、この幸せな気持ちだが、読書への気力減退を緩やかにしてくれるのではないか。

(竹内)

# 『ダブリンで日本美術のお世話を』

潮田淑子著

平凡社 236頁 2014年8月刊 2,400円 (請求記号) 706.9

アイルランドのダブリンにチェスター・ビーター・ライブラリー(以下CBL)という小さな図書館がある。そこに静かに眠っていた数々の日本美術品の管理をしていた一人の日本人女性がいた。

一九六〇年、著者はダブリン大学に勤める夫に合流するため、一歳半の息子を連れてアイルランドへ渡った。当時、日本人は殆どおらず、夫の大学の友人やその家族らに支えられながら専業主婦として楽しく暮らしていた。

一九七〇年、日本語講座で講師をしていた著者は、一般公開するため準備を始めていたCBLの学芸員に、早急に日本語を教えてほしいと頼まれた。そのうえ日本関係の収蔵品目録の作成も同時進行で行いたいという。そこで著者は自分も一緒に目録作成をしていくと申し出た。といっても日本美術史の素養もない主婦には容易なことではなかった。当時CBLには、実業家チェスター・ビーター卿が生涯かけて収集した数々の貴重な東洋美術作品が手つかずのまま眠っており、中には「奈良絵本」「長恨歌図巻」など国宝級の日本美術品もあった。これらのCBL収蔵品は未公開であったが、その存在を知り訪れる日本人学者たちから、美術品の取り扱いや作品の詳細など、実物を見ながら教わったことは貴重な勉強の機会であった。おかげで目録作成は進み、世界各国から収蔵品貸出の依頼が届き始めた。

様々な分野の研究者たちに助けられ、当時の皇太子夫妻の訪問後、宮内庁書陵部での修復が実現した。取材旅行中の司馬遼太郎に会い、ヒラリー大統領との謁見に同行する場面は、氏の随筆『愛蘭土紀行』にも記され興味をかりたてられる。ほかに、「日本ホツケの父」がお隣のおじいさんだった話や、マグロのトロを「ヘブリリー」と言いながら食べるアメリカ人作家の話など、CBL以外での出会いの話もとても興味深く、穏やかな文章で綴られる著者の日々に、出会いの大切さを知る。

(池之上)

		11月・12月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
11月	12月					
6日	4日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	11日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	18日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子ニュータウン 公民館 16:00~16:30

11月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	<del>4</del>	<del>5</del>	6	7	8
9	10	<del>11</del>	12	13	14	15
16	<del>17</del>	<del>18</del>	19	20	21	22
23	<del>24</del>	<del>25</del>	26	27	28	29
30						

3日、23日の祝日を開館し、振り替えて5日、24日を休館します。

12月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土
		<del>1</del>	<del>2</del>	3	4	5
7	8	<del>9</del>	10	11	12	13
14	<del>15</del>	<del>16</del>	17	18	19	20
21	22	<del>23</del>	<del>24</del>	25	26	27
28	<del>29</del>	<del>30</del>	<del>31</del>			

カレンダーの×印は休館日です。開館は10時から18時まで。金曜日は20時まで開館しています。

